

令和6年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立九段生涯学習館	所在地	千代田区九段南1-5-10
-----	--------------	-----	---------------

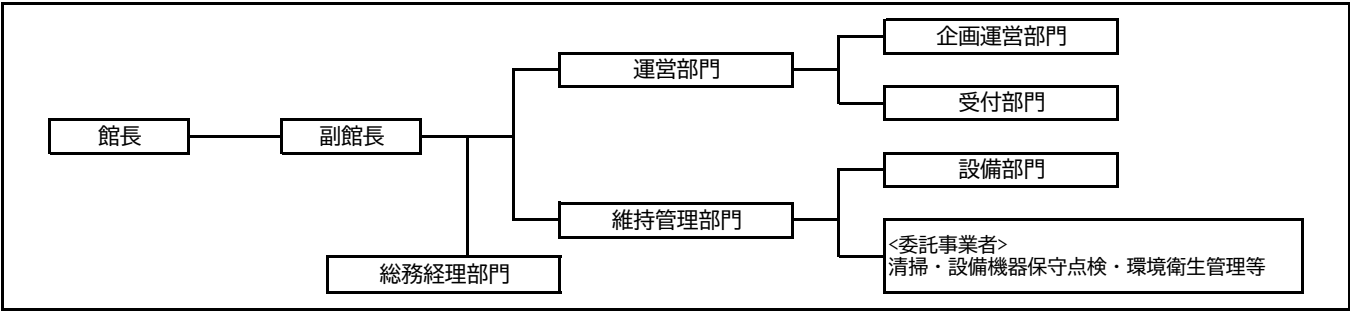
1 指定管理者の概要

名 称	ちよだすぽすたみらい		
代表団体	美津濃株式会社	代 表 者	代表取締役 水野 明人
所在地	大阪市中央区北浜四丁目1番23号		
構成団体1	ミズノスポーツサービス株式会社	代 表 者	代表取締役 薬師寺 洋彰
所在地	大阪市中央区北浜四丁目1番23号		
構成団体2	株式会社小学館集英社プロダクション	代 表 者	代表取締役社長 松井 聡
所在地	千代田区神田神保町二丁目30番地		
構成団体3	大星ビル管理株式会社	代 表 者	代表取締役 中村 克
所在地	文京区小石川四丁目22番2号		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	報告期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	区民（区に住み、働き、学ぶ全ての人々をいう。以下同じ）の生涯学習の振興を図ることを目的とし、生涯学習活動を実践できる場の提供及び支援に関する事業を行う
管 理 業 務 の 内 容	(1) 生涯学習館の施設の利用承認に関すること。 (2) 生涯学習関係団体の育成及び連携に関すること。 (3) 生涯学習の指導及び助言に関すること。 (4) 生涯学習活動の普及及び推進に関すること。 (5) 施設の保守及び維持管理に関すること。 (6) その他館の事業及び管理運営に関し必要な業務。

3 管理体制の状況



4 事業実績等

ア 施設利用

年度	総数	区民一般団体利用件数	事業利用件数
6	8,475	7,921	554
5	8,025	7,500	525
4	7,611	7,116	495

イ 主催事業

【指定事業】区民自主企画講座（8講座）、生涯学習教養講座（4講座）、家庭教育学級（4講座）、児童生徒余暇事業（3講座）、生涯学習人材バンク活用講座（7講座）、生涯学習人材バンク登録制度、ちよだ生涯学習カレッジ、子ども自然教室、くろべ子ども自然体験村、生涯学習団体1日公開講座事業（50団体）、講座講習会バウチャー制度（611件）、生涯学習ガイドブックの発行（1,490部）、生涯学習ホームページの運営

【提案事業】区内生涯学習交流事業（九段フェス2025）、異世代交流事業（1講座）、ちよだまち魅力探訪（2講座）、施設利用者用コピー機の設置、フリーWi-Fiの設置

ウ 施設等の維持管理業務

・建物、設備保守管理 ・施設清掃業務（害虫駆除含む） ・警備業務

5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料収入	113,891,718円	人件費	66,445,789円
施設利用料金収入	8,238,025円	委託費	11,349,492円
個別指定事業(指定分)収入	3,783,500円	事業運営費	49,336,046円
個別指定事業(提案分)収入	207,740円		
その他収入	258,679円		
合計 (①)	126,379,662円	合計 (②)	127,131,327円
収支差額 (①－②)	-751,665円		

6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
令和6年度においては、利用件数合計は8,475件（対前年105.6%）でした。コロナ禍で活動が停止していた団体が活動を再開したこともあり、コロナ禍以前の利用件数（H30年度8,460件）まで回復し、中小規模の部屋を利用する団体による学習活動が活発に行われる様子が見受けられました。 講座事業においては、地域への理解と関心を深めることを目的に、地域企業・団体と連携し、受講者が実際の現場を訪れる学びと体験の機会を提供しました。特に「ちよだまち魅力探訪」での日本武道館の見学や、教養講座における日生劇場での観劇は、参加者から高い評価を得ました。また、企画案募集や生涯学習団体1日公開講座には採用数を超える応募が寄せられ、生涯学習への関心の高まりと地域の期待を実感しました。年度末の区民生涯学習交流事業「九段フェス2025」では、昨年度より参加団体も増え成果発表の場として定着してきたと考えられます。またYouTube配信も再生回数が増え、新規入会者獲得（サークル支援）にも一定の成果を上げています。第8期ちよだ生涯学習カレッジは23名の方が入学し、20名が卒業しました。定員未達ではありましたが、課題の受講期間の負担軽減等の取組により入学生は対前年+2名、卒業生は+9名となりました。卒業率を高める対策として、現役世代の受講者が多く、仕事や家庭の事情で講座を欠席し出席日数に影響が及ぶ方々には、卒業要件を満たすための課題を提示しましたが、卒業の意思はなく、ご自身のペースで無理なく最後まで受講されることを希望されました。次年度の定員割れ対策としては、広報の強化と募集時に年間を通した受講スケジュールを提示できるよう早めに各講師との調整を行い、入学前から具体的な受講イメージを持っていただけよう努めてまいります。 以上、今後も利用者の声を丁寧に受け止め、サービスの質向上と講座の多様化に取り組み、地域に根差した学びと交流の拠点としての役割を果たしてまいります。	（収入） 収入累計については、予算比99.0%となりました。主な予算未達の理由は施設利用料の予算未達によるものですが、利用件数合計は8,429件、前年比では106.1%の増加、施設利用料としては前年比105.7%と増収傾向となっております。 今後も引き続き、施設利用料の増収に向けた施策を講じて参ります。具体的には、引き続き備品の拡充や新規サークルの登録獲得などに取組み、稼働率の低い実習室やギャラリー、小規模な部屋の稼働率を上げ、全体の利用率の更なる向上を目指します。また、利用規定上は問題ないものの、予約した部屋を結果として利用しないケースも徐々に減ってきており、引き続き譲り合った予約や利用を心がけていただくよう周知し、受付で事前に確認の声掛け等も行い、本来利用を希望する団体に適切に部屋を提供できるよう配慮して参ります。 （支出） 支出累計については、99.6%と予算内に収まりました。しかし、収支としては752千円のマイナスとなっているため、今後も収入増と同時に経費の削減を図って参ります。 人件費増については、公契約条例に伴う最低賃金の増加等による人件費アップ、職員の離職等のため引継ぎのコストが高くなる等による結果となりました。また、光熱水費増についても電気代の高騰によるもので、利用者サービスを維持しながらも更なる節電対策に努めます。役務費増は、業務効率化のためMicrosoft365の導入を行ったことで超過しております。諸経費減については、採用を本部経費で行うことで大幅に縮減することができました。 今後も、人件費や物価の高騰が予測されるため、無駄な支出を削減し、限られた予算を活用して、より利用者サービスに還元できるよう努めて参ります。

7 区による評価・業務改善要求

地域への理解と関心を深める質の高い魅力的な教養講座が開講されており、施設利用件数もコロナ禍以前の水準まで回復している。また、予約施設の直前キャンセルを防ぐため、窓口での積極的な声掛けなどの取り組みも行われており、これらの点を高く評価する。 一方で、前年度と比較して収支差が拡大していることから、無駄な支出の削減など、収支改善に向けた継続的な努力を求める。

8 今後の指定管理に区が期待すること

引き続き、利用者に対して質の高い魅力的なサービスを提供できるよう、きめ細やかな対応をお願いする。 また、当施設の建て替え計画に伴い、移転に向けた準備も進んでいく見込みであり、今後も区との連携を密にし、現施設の運営および将来に向けた検討を一体となって進めていくことを期待する。 ちよだ生涯学習カレッジについては、区において今後のあり方の検討を進めており、その結論を踏まえ、より一層区民ニーズに即した事業展開を図っていただきたい。
--